

＼あなたもできる！福わたし／

令和5年度（補正予算）

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

01 お金の支援	02 時間の支援	03 活動の支援
<p>いただいた寄付を活動の資源にさせて頂いています</p> <p>個人 賛助会員 年間1口 3,000円</p> <p>法人 賛助会員 年間1口 50,000円~</p>	<p>一緒にみんなで活動しませんか？</p> <p>入庫・出庫 作業</p> <p>倉庫整理</p> <p>集荷作業</p> <p>フードドライブ受付</p>	<p>食料確保が困難な方々におすそわけする活動を継続</p> <p>倉庫や敷地の貸出</p> <p>広報</p> <p>企画運営</p> <p>フードドライブの開催</p>
<p>申込みはメールor電話にてお願いいたします。 「お金の支援」は以下の口座にて受付しております。 ▶ 名義：一般社団法人やまがた福わたし</p>		
<p>ゆうちょ銀行 記号：18560 番号：23672901</p>	<p>荘内銀行 山形営業部 支店コード：160 普通：1114396</p>	<p>山形銀行 山形南営業部 支店コード：140 普通：1643</p>

人と環境にやさしい

フードバンク活動で

地域で助け合える

あたたかい山形に



やまがた福わたし

地域に根ざした団体との協働による

食のセーフティネット事業

成果報告書

一般社団法人やまがた福わたし

〒990-0022
山形県山形市東山形2丁目2-11
TEL：023-606-0053



やまがた福わたし
food bank yamagata central



事業の背景と目的

私たち「やまがた福わたし」は、豊かな農産物と温かい人々が暮らす山形県で、地域の人々が互いに支え合うフードバンク活動を行っています。活動を通じて、地球環境問題、貧困問題、食品ロス削減、孤立・居場所問題、80・50問題（高齢の親と中高年の子どもが共に困窮する問題）など、さまざまな地域課題の解決に取り組んでいます。私たちの目的は、食料支援を通じてみんなが共に生きられる社会を実現することです。2016年10月に活動を開始して、その実現に向けて日々努力を重ねています。

“**困った時はお互い様**”という理念のもと、食料を提供できる方々は「フードドライブ」を通じて寄付を行い、支援が必要な方々はその支援を受けて自立した生活への一歩を支えています。私たちは常に社会課題と向き合いながら、県内の行政機関、自立支援窓口、NPO団体、こども食堂、学校など、幅広い連携で支援を拡大しフードバンク活動を進めています。

最近では、物価高騰の影響で生活が困窮している世帯や、ひきこもり状態にある方々への支援を行っており、また、置賜地域で活動しているこども食堂や地域食堂、学習支援団体と協力して、年に6~7回、食品や生活用品を提供する「こどもおふく便」を実施しています。さらに、大雨災害の影響を受けた地域で「フードパンリー」を実施しており、災害の被災者支援にも取り組んでいます。

その他、フードバンク団体として、行政やこども食堂、福祉施設、福祉団体に対しても中間支援を実施し、地域全体で助け合える仕組み作りに貢献しています。

物価高騰の影響で多くの方が支援を求めている中、事業の主旨を評価して採択していただいたことで、山形県内の多くの生活困窮者やひきこもり状態の方がいる世帯等へ食料や生活用品を無償で提供すると同時に、補助や貸付、相談窓口等の情報提供をすることができました。このような活動を実施できたのも令和5年度（補正予算）独立行政法人福祉医療機構より助成していただいたおかげです。厚く御礼申し上げます。また事業を支援して下さった個人・団体・企業の皆様にも心より御礼申し上げます。

一般社団法人やまがた福わたし

代表理事 伊藤 智英



連携先自治体

山形市、新庄市、大江町、河北町

連携機関

連携先自立支援窓口（社会福祉協議会）

山形市、天童市、東根市、尾花沢市、長井市、南陽市、寒河江市、大江町、中山町、山辺町、大石田町、白鷹町、川西町、飯豊町、金山町、庄内町、三川町

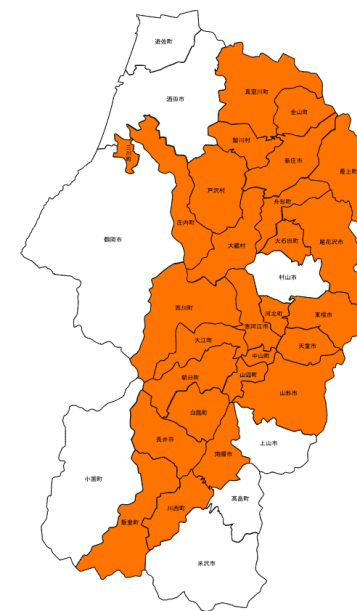
連携先自立支援窓口

西村山地域生活自立支援センターういんず
生活自立センターもがみ

その他連携先各団体

各地のこども食堂・地域食堂
山形県学童連絡協議会
社会福祉法人 思恩会
特定非営利活動法人With 優
特定非営利活動法人から・ころセンター
社会福祉法人 愛泉会 地域生活支援センター天花
西村山地域基幹相談支援センター 基幹相談支援センターかぼちゃ

（順不同）



事業の実施概要・実績

1

自立に向けた食糧支援 事業

失業、病気、DV、ひきこもり等様々な理由により経済的に困窮状態の方又は地域で孤立しがちな家族が、安心して生きていけるために、自立支援窓口などの専門家と連携したサポート体制によって食料等を提供し、自立した生活に戻れるまで継続的に関わりました。

2

フードパントリー／こどもおふく便 事業

物価高騰の影響等で生活が困窮している世帯に対し、生活の改善と見守りを目的に食料支援を実施。フードパントリーは、団体単独又は社協と協働で会場で食品を選び、保存に有効かつ調理の負担の少ない冷凍食品も含め、提供しました。

こどもおふく便については、置賜地域の団体と協働でアウトリーチ型支援を実施。また今後の活動拡充のため、地域のこども食堂等との「連携会議」を開催しました。

3

生活困窮者や引きこもりへの中間的支援 事業

生活困窮者やひきこもり状態の人々を支える、こども食堂・地域食堂・福祉施設・福祉団体などを経由して食料を提供することで、それら連携団体を通じての食品提供及び活動成果に貢献することを目指しました。

2024年4月～2025年2月実績

- ・こども食堂 245.6kg ・行政 490.5kg ・福祉団体 1420kg
- ・社会福祉協議会 1225.7kg ・フードバンク団体 4731.5kg



事業によって得られた成果

- ・2024年4月～2025年2月までの実績として、食品支援対象件数はのべ248世帯、支援対象人数はのべ509人となりました。
- ・世帯ごとの状況に応じて、1人あたり1ヵ月18kg前後の食品を無償提供することで、生活の安定を目指しました。
- ・結果として、多くの方が生活の立て直しを進めることができ、自立への道筋が確保されるという成果が得られました。

- ・定期的な訪問や直接の手渡しにより、利用者との関係性を構築し、日常の悩みや困りごとの相談を受けやすくなりました。それによって、行政や関連窓口の情報を提供し、問題解決につながることができました。
- ・団体と協働することで、世帯で食べない食品を返却してもらい、他の世帯へと回すことで、貴重な提供食品を無駄にせず活用することができました。

- ・物価高騰で運営が厳しいこども食堂に、調味料・缶詰・果物を提供することで、安定した運営のサポートができました。
- ・食品寄付が不足しているフードパントリー団体へ提供することで、支援を必要とする、多くの人々に食料を届けることができました。
- ・企業の食品ロス削減に貢献することができました。



自立支援事業・利用者の声

ギリギリの生活で生きるか死ぬかくらい
の状態だったため本当に助かります。
(70代・男性)

大変助かっております、食べたいものが入っ
ていてうれしかったです。(30代・男性)

Thank you very much to all Her
blessings. (40代・女性)

一人暮らしでこの物価高のおり大変難儀して
おりました、助かりました。(70代・男性)

やっと仕事に就けました、ありがとうございます。
(40代・女性)

大変助かります、年末も無事に過ごせそうで
す。(40代・女性)

こどもおふく便・利用者の声

一時的に仕事が減り大変だったので助かり
ました。

食事が偏っているので、いろいろな種類が
あって助かります。

こどもの不登校もあり仕事も短時間にな
り生活が厳しいが、食品をいただけとて
も良かった。

こどものお弁当にも使えるものもあってうれ
しい。

生活保護の受給も考えている状況で生活
は厳しいが、明るく頑張っているので見
守りたい。(協働団体からの声)

こどもが一日一食の食事になっているよう
なので、引き続き寄り添っていきたい。(協働
団体からの声)

フードパントリー・利用者集計

	地域	世帯数	大人	子ども	人数合計
7月13日	置賜地域	20世帯	41人	23人	64人
8月24日	庄内地域	25世帯	38人	27人	65人
11月23日	最上地域	14世帯	26人	4人	30人
12月14日	庄内地域	25世帯	42人	34人	76人
延べ合計		84世帯	147人	68人	235人

フードパントリー・利用者アンケート

今年度のフードパントリーでは、現在の状況を把握するために21項目のアンケートを実施しました。その結果の中から、特に気になる項目について掲載いたします。

世帯人数	世帯数	生活保護水準以下の世帯数（※）	生活保護水準以下世帯数の割合
1人の世帯	12世帯	7世帯	58%
2人の世帯	20世帯	14世帯	70%
3人の世帯	14世帯	11世帯	79%
4人の世帯	13世帯	11世帯	85%
5人の世帯	9世帯	5世帯	56%
6人の世帯	1世帯	1世帯	100%
7人の世帯	3世帯	1世帯	33%
8人の世帯	1世帯	0世帯	0%
全体	73世帯	50世帯	68%

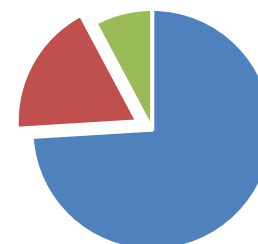
※無回答2世帯除く
「生活保護の自動計算サイト」 (<https://seikatsuhogo.net/>) を参考に県内市町村の平均にて基準を算出。

ライフラインの支払い状況

●滞納無し ●1ヶ月以上の滞納有り ●無回答

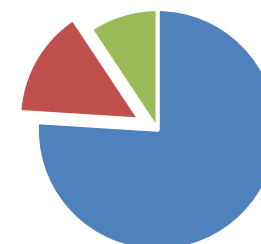
電気料金
滞納率

19%



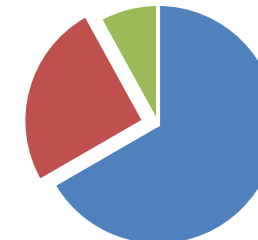
ガス料金
滞納率

15%



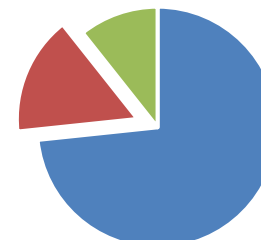
水道料金
滞納率

25%

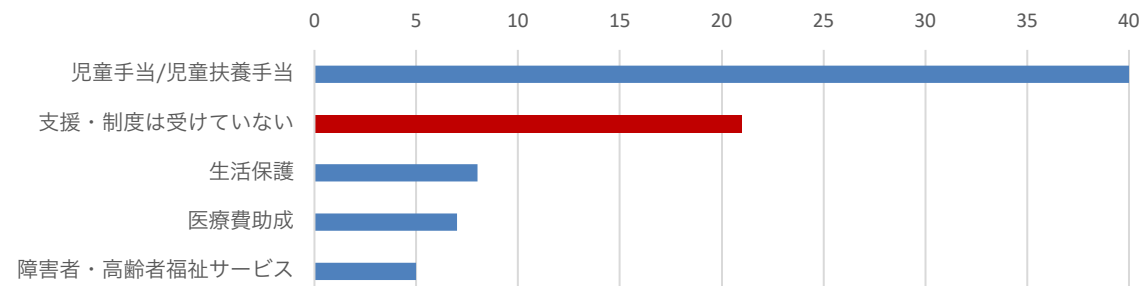


電話料金
滞納率

16%

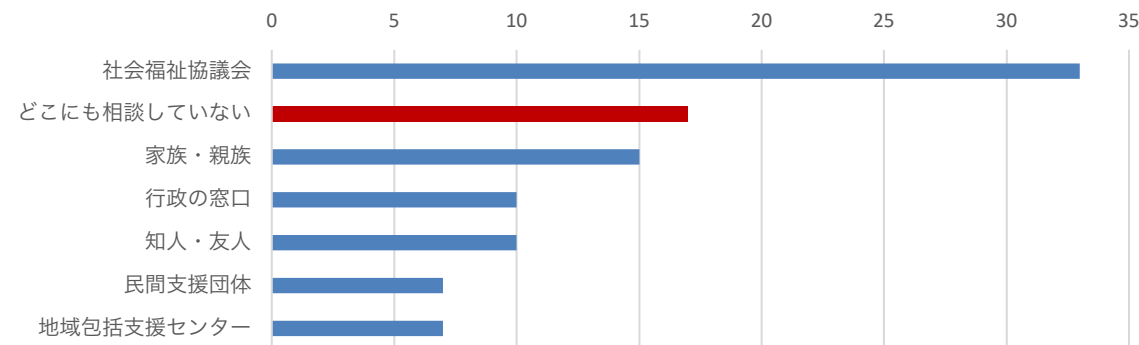


現在、受けている支援・制度 (世帯数/複数回答)



※上位5つのみ表示。他に、障害年金、失業手当、奨学金（貸与型・給付型）、社会保険料等の猶予 など

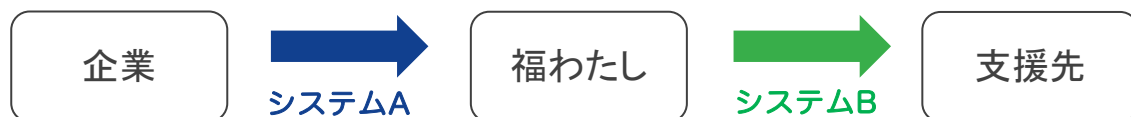
生活について相談している機関等 (世帯数/複数回答)



※上位7つのみ表示。他に、病院、生活困窮者自立支援窓口、会社の上司・先輩、民生委員 など

新システムの導入

寄贈食品の適切な管理においては、従前より福わたし独自のシステムを構築しておりましたが、今回、個人情報の漏洩防止・支援履歴の管理・ペーパーレス化を目的に、Eメールにおける個人情報のやり取りを廃止し、新システムを導入しました。



A) 企業 → 福わたし への「食品寄贈」システム改善

旧システムのフロー		新システムのフロー
1. 福→企：メールで希望数量と希望到着日時を連絡	>	1. 福→企：システムに希望数量と希望到着日を入力
2. 企→福：社内で調整・確認後にメールで回答	>	2. 企→福：社内で調整・確認後にシステムで回答
3. 企→福：寄贈明細をメールで送付	>	3. 企→福：寄贈明細をシステムに入力
4. 福：寄贈食品到着後、明細とチェック	>	4. 福：明細をシステムから出力し、到着した寄贈食品を、明細とチェックし入力する
		5. 企：寄贈履歴や数量を簡便に把握できる

B) 福わたし → 支援先 への「食品提供」システム改善

旧システムのフロー		新システムのフロー
1. 支→福：支援依頼書を作成してメールで送付	>	1. 福→支：各連携先にアカウントを発行して、システムにログインできるようにする。
2. 福→支：メール受信後に、メール又は電話で受渡の調整をおこなう	>	2. 支→福：システムから支援依頼内容を入力し保存、受渡についてもシステム上で調整。 (受益者が調理ができるかなど、より細かい情報も入力可能となった)
3. 福→支：支援品の明細兼受領書を作成し、品物を準備してお渡し。	>	3. 福→支：受領書と品物をお渡りする。 (支援品の明細は廃止とした)
*過去に支援した世帯から再度支援依頼が来た場合は、年度ごとにファイルしている書類を探して確認。	>	*活動当初より世帯ごとに管理番号を設定しており、今回もそのまま継承しているため、世帯ごとの支援回数なども把握。 また新システムに入力した分からは、各アカウントごとに履歴が管理できるようになり、今後の支援活動にも活用できる。

新たな課題とニーズ

本事業を通じて新たに発見した課題は、生活困窮世帯における「食育」と「調理スキル」の不足です。

こどもおふく便の取り組みの中では、レトルト食品など簡単に調理し、食べやすい食品を希望する声が多くありました。しかし、子どもの成長には「噛む力」を育てることも重要です。さらには節約の観点からも、食品の提供だけではなく、安くておいしく、簡単に調理できる方法の支援が必要だと考えます。料理ができない支援対象者に調理スキルを身につけてもらい、食費を節約しつつ、家計を改善できるようにする必要があります。

物価高騰は続いており、その影響で来年度も多くの世帯で食料支援のニーズが高まると予想されます。



まとめと今後の展望

今年度のWAM助成を受けて実施した「地域に根ざした団体との協働による食のセーフティネット事業」により、多くの生活困窮者を支援することができました。利用者からは「家計が助かった」という声だけでなく「心が救われた」と仰る方も多く、支援の重要性を実感しました。

今後も地域のフードバンク団体として、「食のセーフティネット」となる活動を続けていく所存です。最後にこの報告書を通じて、行政の生活困窮者支援の取り組みや民間の実施するフードドライブが、更なる発展や改善につながっていくことを願っています。

ご意見・ご感想はこちらまで → toiawase@fukuwatashi.com